

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年4月23日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670200510
法人名	医療法人 厚徳会
事業所名	グループホーム ふるさとの家「すずらん」
所在地	鹿児島県薩摩川内市勝目町5215-5 (電話) 0996-27-6060
自己評価作成日	平成29年1月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URI	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成29年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の高齢化・介護度の上昇に伴い、生活面に影響を及ぼす問題をそれぞれが把握し、身体面・精神面の細かい部分にまで配慮しながら支援するように努めている。

ご家族が面会に来られた際には近況報告や相談を行い、日頃からコミュニケーションを図るようにしており、ご本人やご家族の望みを理解できるよう努め、その望みを実編できるような働きかけを心がけ、関係づくりに努めている。

地域との関わりを大切に、ボランティアサークルの活動の定期的な受け入れや、看介護を担う人材育成の一端をになうため、看護大学や介護専門課程の実習の受け入れを積極的に行っている。

また、医療連携体制の下で、利用者様の日々の健康管理（バイタルサインや食事・排泄チェック・睡眠状況など）について医師・看護師・薬剤師・理学療法士・管理栄養士といったそれぞれの専門職に相談・協力をもらいながら取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は、同法人の通所リハビリテーションや小規模多機能ホーム・高齢者住宅・居宅介護事業所・訪問介護事業所をはじめ母体医療機関も隣接している。24時間医療連携体制が整っており、災害時の相互協力関係も構築している。
- ・自治会に加入し、地域行事などに積極的に参加する一方、社会福祉協議会主催のスーパーボランティア育成の実習も受け入れるなど、地域に根ざした医療や福祉に取り組んでいる。
- ・管理者や職員は自宅での暮らしに近い生活ができるように、その人らしい生活を支援している。各居室にトイレと洗面台があり、利用者の尊厳やプライバシーに配慮しながら、より良いケアに努めている。
- ・管理者は職員が働きやすい環境作りに配慮し、職員育成にも力を入れ、資格取得に向けた支援を行っている。職員間のコミュニケーションも図られ、自らの資質向上に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、楽しく、穏やかに」をユニット理念として掲げ、朝礼後は復唱を行っている。常に理念を意識し、ケアに努めている。	法人全体の5つの運営方針を根幹として地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を、ユニットごとに作成し、玄関やホールに掲示しネームの裏にも明記している。申し送り時に唱和し、ミーティング等で、振り返り理念を共有して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアグループの活動を積極的に受け入れている。地域自治会の活動への参加や、地区内の保育園の園児との交流等、積極的に行っている。	法人として町内会に加入し、回覧板で情報を得ている。敬老会や夏祭りなどの地域行事にも積極的に参加している。保育園との交流や中学生・高校生の職場体験学習、大学生看護学科の介護実習、ボランティアの受け入れなども行って、日常的に地域と交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議内にて、認知症ケアについての発信や、地域のサロン等の要望があれば、認知症ケアの講座や、小学校へのキャラバンメイト養成講座などお受けしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議内にていただいたご意見や提案を、事業所内で運営に反映させている。(声掛けや接遇について等)。</p> <p>事業所の現場スタッフも今年度から参加しており、地域との連携について学びきっかけとなっている。</p>	<p>会議は定期的開催している。事業所の状況や外部評価の報告などを行い、参加者からも多くの助言や提案がある。提案で施設内見学会を実施し、避難訓練時の対応に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>行政の担当者へ、必要に応じて事業所の報告等行っており、運営会議への参加も積極的にいただいている。</p> <p>いつもの確かなアドバイスやご意見をいただいている。</p>	<p>市担当者とは窓口に出向き、情報を交換して助言を貰っている。電話でも相談している。運営推進会議を通して協力関係もできている。グループ協議会の理事として役員を担い、市と協働で認知症サポーター養成講座にも取り組んでいる。市主催の研修会にも積極的に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関の見えるところに「身体拘束排除宣言」を提示している。</p> <p>ミーティングや申し送り等の中で、支援の方法によっては拘束になってしまうことを常々確認しながら、認知症ケアについても話し合いを重ね身体拘束をしないケアを実践している。</p> <p>部門内研修を実施している。</p>	<p>身体拘束廃止委員会で、マニュアルに沿って、事例や課題に基づいた勉強会を実施し、職員の共通認識を図り、拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束排除宣言を玄関に掲げて、薬や言葉による拘束についても配慮している。日中の玄関は施錠をせずに職員間の連携で安全な暮らしを支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルに基づいて勉強会を行い、虐待についての理解を深め、相手が嫌だと思うことは、虐待につながっていくことを意識し、職員同士で気づき、注意し合える環境作りを目指している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在の入居者様に制度を利用している方はいない。 研修会等の機会があれば、積極的に参加し、いつでも受け入れる体制をとっておきたいと考えている。 権利擁護については、入居者様の様々な権利について、学ぶ機会を設けていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の際に、認知症の症状で困っていること、不安に感じていることを聞き取りながら、今後起こりうるリスク、事故発生時や重度化(看取り期)の対応についてや、医療連携体制等、丁寧にご説明し、しっかりと理解していただいた上で契約の同意をいただくようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様が、どういう思いや望みをもっておられるかを日頃の会話や支援の中から読み取り、観察している。ご家族の意見もご意見箱の設置や、日頃の面会時、担当者会議の際にお伺いするなどして、事業運営に反映できるように心掛けている。	利用者からは日々の関わりの中で意見や要望を聞き思いを把握している。家族からは面会や家族会・電話などが意見を聞く良い機会となっている。遠方の家族にもホーム便りや携帯メールで近況報告をし、返信をもらっている。出された意見等は、サービス担当者会議で検討し、反映させている。意見箱も設置している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月2回のミーティングを開催し、運営についても職員間より意見をもらうなどしている。管理者は携帯等のメールの活用などしながら、スタッフが自由に相談できるような体制をとっている。</p>	<p>管理者は申し送り時やユニット会議・全体会議等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映を図るよう心がけている。相談事は個別に聞き適切にアドバイスをしている。出された意見で有給休暇の取り方などを工夫し、働きやすい体制に改善するなど、運営に反映している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員の資格取得に向けた支援を行い、資格取得後は資格手当として給与に反映している。スタッフの働き方についての意向も確しながら、職場内・法人内で働きやすい環境作りに努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>スタッフのレベルに応じた研修に参加できるよう、業務調整等行い積極的に派遣したいと考えている。研修参加スタッフによる研修報告会をミーティングで行い、参加していないスタッフとも共有できるようにしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>今年度、グループホーム連絡協議会の理事をお引き受けし、他事業所との交流、活動を行っている。他事業所との交流により、気付きやアドバイスなどあり、良い支援につながるよう取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があったときは、必ずご本人に面会し、心身の状態やご本人の思いや困っていることに着目し、ご本人が安心してくださるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用相談、入居の際など、ご家族の思いや不安なことを聞かせていただき、不安なく入居できるように、困っていることを解決できるように支援しながら、安心していただけるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、ご本人の「できること」と「支援の必要なこと」を見極めたうえで、ご家族のご要望も伺いながら、ご本人に必要な支援を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の心身の状態を考慮しながら、できることは積極的に活動を担っていただき、入居者様・スタッフ共に支え合うことで、誰かのために生きること、人のために役に立つ喜びを感じてもらえるよう、日常的に心掛けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人が体調の良い時の外出をお願いしたり、一時帰宅など共に過ごす時間を持つことをお勧めしている。家族交流会等を計画し、ご本人とご家族、スタッフとの交流の機会を積極的に設け、良好な関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の友人・知人、地域近所の方の面会も歓迎している。面会の折にはゆっくりと過ごしていただけるよう配慮し、また訪ねていただけるよう声掛けや、いつでも来れるような環境作りに努めている。	親戚や友人知人の訪問の際には、状況に応じてお茶を出したり、馴染みの店での買い物など継続的關係が途切れないよう支援している。電話の取次ぎなども行っている。家族の協力で外出や外食・墓参などの際にも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が良好な関係を作れるよう、スタッフ調整役を担ったり、お互いが支え合う関係づくりを意識している。入居者様間のトラブルも、共同生活をしていけば起こりうることで、その際には良好に解決できるよう早い介入と、関係の調整を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人とご家族の退去後の相談にはいつでも応じる体制をとっている。退去されたご家族との交流も続いており、畑に招待して下さったり、季節のいただきものをしたり、介護に関する相談をお受けしたりすることもあり、良好な関係の構築に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時にご本人やご家族から聞き取るようにしている。その後の支援の中で、ご本人の意向を確認しながら思いに沿った支援に努めている。意思表示の困難な方であっても、今までの生き方や思いを鑑み、どのように希望されているのか慮る努力をしている	日々の関わりの中で声をかけ、言葉や表情などから思いや意向の把握に努めている。生活歴の中から暮らし方も把握している。困難な場合は家族や関係者からも情報を聞き、利用者の視点に立って職員で話し合い、本人中心の支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族より、わかる範囲での過去からの生き方や、入所に至るまでの経緯や葛藤をお聞きし、その思いを職員間で共有し、ご本人を心から理解し支援に反映できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様が自分らしく暮らせるように、ご本人の意向、思い、ご家族の「こんな風に暮らしてもらいたい」というような要望を伺って、支援の計画作成を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の実施状況、支援の効果などを評価するとともに、スタッフが日々記録するご利用者の思いや状態の変化、ご家族の意向など 必要に応じて見直しを行っている。	本人や家族の意向を確認し、主治医の意見も取り入れ、個々に応じた介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直しをしている。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子については支援経過に残し、個人ごとにケース記録に詳細に記入している。月末には担当者による評価を行い、ご本人の状態の確認を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関の受診の付添い、買い物支援などは、ご家族と相談しながら、事業所が変わって行くこともある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が安心して地域での暮らしが継続できるよう、行政、自治会、民生委員、消防、包括など多様な方に運営推進会議にご参加いただき、地域との協働の一環としている。その中でご意見をいただいたり、事業所から要望したりしながら、地域資源を活用する取り組みをしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	事業所の協力医のほか、以前からのかかりつけ医を受診できるようにご家族と協力し、必要であれば通院介助等を行う。必要に応じて、複数の医療機関との協力体制をお願いしている。	かかりつけ医は本人や家族の希望を大切にしている。事業所の協力医の他、関係医療機関との連携や必要時には歯科往診も対応している。受診結果は家族と共有している。協力医療機関の看護師とも連携し、緊急時の対応など連携を取りながら適切な医療が受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関の看護師と連携し、毎朝の体調報告、特異時の対応の指示など行っている。夜間緊急時には待機看護師により、応急処置が行える体制をとっている</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院による認知症の症状の進行などのダメージを最小限にするため、入院先Drや担当ワーカーと話し合う機会を持ち、事業所内で対応可能な状態へ回復したら、早急に退院できるよう体制をとり、働きかけている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に、その時点で伺える範囲のご本人とご家族の死生観を含めた終末期の過ごし方について聞き取り、同意をいただいている。終末期に対する対応方針を定め、終末期と判断された時には、ご本人の意向を大前提に、ご家族・Dr・看護師を交えて検討を行っている。また、終末期の希望に関しては気持ちの揺れ、思いの変化も十分にあり、その時の意向に沿った支援ができるように努めている。</p>	<p>契約時に重度化や終末期に伴う対応の指針を説明し、同意書を貰っている。状況変化に伴い重度化時対応相談シートに本人や家族の意向を随時確認し記録している。主治医や看護師・関係者が連携して家族と方向性を共有できるよう取り組んでいる。夜間緊急時の対応の仕方について全職員が見ることができるよう事業所内に掲示している。看取りの事例もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時や事故発生時にはすぐに連携看護師へ連絡し、指示を仰ぐようにしている。夜間緊急時の対応の仕方について全職員が見ることができるよう事業所内に掲示している。外部の救急対応訓練に参加した職員はいるが、部門内での定期的な救命講習等は実施していない</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防訓練を実施する際には、事前に地域自治会や、周辺のコンビニ等の事業者 近隣住民に案内を回覧し参加を呼び掛けている。通常は火災防火訓練が中心であるが、今後はさまざまな災害を想定した訓練を実施していきたいと防火管理者と検討している。</p>	<p>年2回消防署の指導の下、夜間想定避難訓練を実施している。事前に回覧板で地域の自治会や近隣住民・コンビニ店長などにも案内し、参加を呼びかけて、協力を得ている。避難場所も決っている。スプリンクラーや自動火災報知機・火災通報装置も設置されている。災害時の水や米・缶詰・インスタント食品などの備蓄もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりについて職員が一人一人が入居者様の尊厳を大切にしたい対応ができるよう、ミーティングや外部・内部研修を通して考える機会を設けるようにしている	ミーティングや外部・内部研修会で研鑽し、日々の言葉かけやかかわり方に配慮している。認知症の理解やケアに関する勉強会も行っている。入室時や入浴・トイレ誘導などでは羞恥心に対する配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決定を要す場面において、複数の選択肢の提示、それぞれを選択したのメリット・デメリットの説明を丁寧に行い、入居者様が自己決定できる支援、その自己決定がよりよい決定になるような働きかけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日のスケジュールはあるが、入居者様の希望や思いに合わせて、スケジュール通りの生活を強要しないよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	着替えはできる限り入居者様と一緒にいき、衣類の選択は入居者様に決定していただき、季節に合うもの、体調に合うものの部分についてはスタッフよりアドバイスさせてもらう。散髪は近所の美容室へ出向いたり、事業所内へ来ていただいたり、入居者様の意向に合わせて対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	H24年度より食事について業者からの提供となり(法人一括)日常的な調理は行っていない。季節に合わせた干し柿作りやお菓子作り、配膳・下膳のお手伝いなど、出来ることをご一緒にお願ひしている。	利用者の嗜好を取り入れ、食事形態に配慮し、委託業者からの食事提供である。利用者も配膳や下膳を職員と一緒にしている。誕生食や家族も参加してのクリスマス会のバイキング・からいも団子等のおやつ作りなど、食事が楽しみなものになるよう工夫している。希望食のアンケート調査を行っている。家族との外食等も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量、定期検査や毎月の体重測定をチェックし、大まかな栄養状態を把握できるようにしている。連携看護師や法人内の管理栄養士に相談し、専門的なアドバイスをもらい対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け、見守り、義歯の清掃など、一人ひとりの出来る力に応じて口腔ケアを支援している。歯科受診についてはご本人・ご家族の意向を踏まえながら、通院や訪問歯科診療の対応をしている。食事前の口腔体操は賑やかに楽しみになるよう工夫しながら実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、それぞれの排泄パターンを把握した上でトイレ誘導を行っている。排泄は自然な行為であることを理解し、ご本人が行きたいときに「行ける」ことを支援するように努めている。	各居室にトイレが整備されている。一人ひとりの排泄パターンや習慣を活かして、必要に応じて声かけをし、トイレでの排泄や排泄の自立を支援している。夜間帯もセンサーにより個別に排泄援助を行っている。リハビリパンツから布パンツに移行した事例が数例ある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給、体操や散歩など適度な運動も取り入れて、事前排便を促すように努めている。排便状況をチェックし、看護師と連携を取り、便秘にならないような対応を心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	それぞれの入浴介助の必要性、必要量を検討しながら、午前・午後に分けて入浴をお願いしている。入浴の頻度はそれぞれで、ご本人の希望や習慣に合わせた支援を行っている。	入浴は基本的に週3回になっているが、本人の生活習慣や体調・希望に合わせて午前・午後ともに希望に沿って柔軟に対応している。状態によっては2人介助にしたり、ゆず湯などで入浴を楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動量を増やし、生活のリズムを整えていただくために、希望や思いに沿った活動を提供できるように心掛けている。お一人お一人の体調や希望を考慮して、ゆっくり休息ができる支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類や容量が変更されたり、ご本人の状態に変化がみられる時は、より詳細な記録をとるようにし、連携看護師や協力医療機関との連携を図れるようにしている。薬の管理についても、入居者様による誤飲等のないよう管理に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれのご入居者の趣味、嗜好、得意なことや好きなことなどが楽しめるような自由な環境作りと、ドライブや外出など多彩な楽しみの提供を行うなどの支援に努めている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	近隣のコンビニやスーパーへの買い物や、美容室への外出などの支援をしている。自宅への帰宅やお墓参りなど、ご要望があれば協力できることをお手伝いしている。	日常的には周辺を散歩したり、個々人の希望で、コンビニやスーパーマーケットに買い物に出かけたり、隣接の小規模多機能ホームに出かけたりしている。計画を立てて、花見や芋ほり・足湯などに出かけている。家族の協力で外出や外食・理美容院利用・墓参等に出かけ、楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お手元には少額のお金の所持をお願いしている。大きな金銭管理は事業所が預かりして管理しており、外出の際の会計時には、ご本人が支払いを行えるような支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望のお宅へ電話すること、事業所への電話の取次ぎなど、ご希望時に対応している。手紙や郵便物はご本人にお渡しし、必要があれば代読をして確認いただいている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅に近い環境、家庭にいるような雰囲気を感じていただけるよう、厨房の様子が見えるような間取りやリビング内にはソファや家庭的な食器棚を配置したり、音楽や光、中庭の活用など、居心地の良い空間づくりを日頃から意識している。</p>	<p>共用の空間は、天井が高く大きな窓からは光が差し込み、換気や温度・湿度に配慮し加湿器や空気清浄機も設置され快適な空間である。ユニット間も自由に行き来できる。中庭が広くお茶をしたりレクリエーションをしている。中庭を挟んで回廊式になっている。壁には行事の時の写真や季節感を大事にした飾りつけがされ、花が飾ってある。畳の間もあり、ソファも数多くあり、好きな場所で居心地よく過ごせるような工夫がされている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関や中庭、廊下のところどころに椅子を配置し、お好きなどころで、お一人で休める場を作っている。時にはご利用者との語らいの場にもなっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅と変わらない居心地の中で過ごしていただくために、入居の際に使い慣れた家具や食器、ご家族の写真など、ご自由に持参していただき、居室内をアレンジしていただいている</p>	<p>居室は広く、エアコンやトイレ・洗面台・クローゼット・ベッド・加湿器が設置されている。テレビや冷蔵庫・タンス・位牌・写真・ぬいぐるみなど使い慣れた物や家族の思いが伝わるものが持ち込まれ、安心して過ごせるよう配慮されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者様の心身の状態に合わせて、居室内の環境が適しているかを検討し、必要に応じて家具の配置換えを行うことがある。 (ご本人・ご家族に同意をいただいた上で)ご入居者様、スタッフの移動導線上の安全の確保、手すりや車いすなど必要な道具の配置など、常に安全を意識した環境作りを行っている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない